

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	平野区
学 校 名	大阪市立長吉小学校
学校長名	岸本 昌悟

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・長吉小学校では、第6学年 76名

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本校ではここ数年、大阪市や全国の平均値に近づけてはいるものの、それらより下回る結果となっていた。

今年度の調査結果の平均正答率は、国語科は63.0、算数科は69.0であった。全国よりは若干下回ったものの、大阪市とは同じであった。

平均無解答率は、全国や大阪市よりも低かった。「児童質問紙」において国語科で解答を文章で書く問題や、算数科で言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題について、最後まで解答を書こうと努力したと回答した児童が約8割おり、調査に粘り強く取り組んだ結果が表れたと言える。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語科〕「書くこと」の領域は全国とほぼ同じ正答率であった。「読むこと」の領域では全国より5.4ポイント低くかった。

〔算数科〕「図形」の領域では全国より19.2ポイント上回る結果であった。「変化と関係」の領域は全国より18.7ポイント下回っていた。

「児童質問紙」の「授業の内容がよく分かるか」の問いに、国語科も算数科も80%近い児童が肯定的な回答をしている。しかし「学習が好きか」の問いには、国語科は49%、算数科は61%という結果になっており、「わかるけど好きではない」児童が多いと推測できる。

授業がわかり、学習が好きになればさらに力が伸びてくることから、「わかって楽しい」授業づくりに取り組んでいく必要がある。

質問紙調査より

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに対し、「あてはまる」と回答した児童が85.3%、「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童は13.3%であり、大阪市や全国の数値よりも上回っていた。自分の行動を振り返させながら、引き続きいじめ0に向けて取り組みを進めたい。

「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに対し「当てはまる」と回答した児童は17.3%、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに対し「当てはまる」と回答した児童は33.3%と大阪市や全国と比べると、かなり低くなっている。児童が「自分が好き」「友だちが好き」「学校が好き」と言えるような学校づくりに取り組むことが重要である。

今後の取組(アクションプラン)

今年度から「生活科・総合的な学習」を研究教科として、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導法について研究を進めている。学校や児童が住んでいる「長吉」に目を向けて、主体的に課題を見い出し、「こうしたら学校がもっと楽しくなる」「ああすれば長吉の町がもっと住みやすくなる」など自分事ととらえて考えることを通して地域の一員であることの自覚を養いたい。さらに地域の方々との関りを通して「あの人のようになりたい」「あんな仕事に就きたい」などと将来への夢や希望をもたせたい。

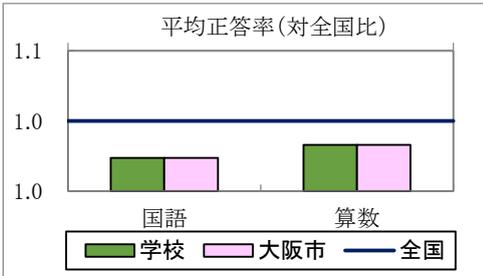
「遅れないで学校に来る」「忘れ物をしない」などの生活規律や学習規律の確立に向け、保護者と協力しながら、学校生活がより豊かになるよう取り組んでいく。

また、生活科・総合的な学習で培った力を他の教科と関連づけながら教科横断的な取組、カリキュラムマネジメントを進めていく

【 全体の概要 】

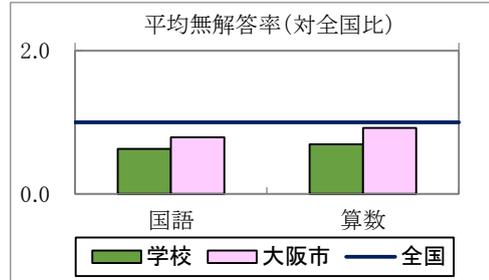
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	63.0	69.0
大阪市	63.0	69.0
全国	64.7	70.2



平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	2.7	1.8
大阪市	3.4	2.4
全国	4.3	2.6



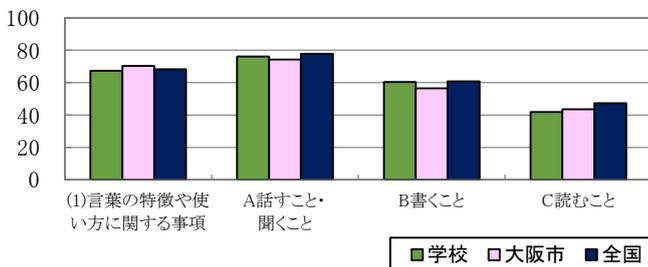
【 国語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	6	67.4	70.3	68.3
(2)情報の扱い方に関する事項	0	0.0	0.0	0.0
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	0.0	0.0	0.0
A 話すこと・聞くこと	3	76.1	74.3	77.8
B 書くこと	2	60.4	56.4	60.7
C 読むこと	3	41.8	43.5	47.2

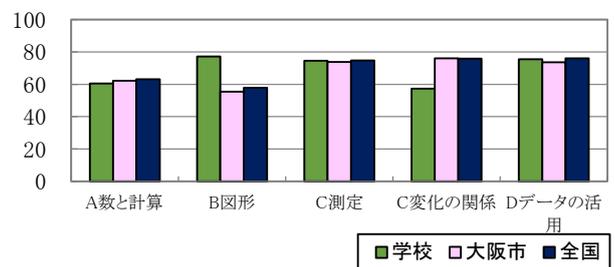
【 算数 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	4	60.4	62.2	63.1
B 図形	3	77.1	55.4	57.9
C 測定	3	74.6	73.8	74.8
C 変化と関係	3	57.2	76.0	75.9
D データの活用	5	75.5	73.6	76.0

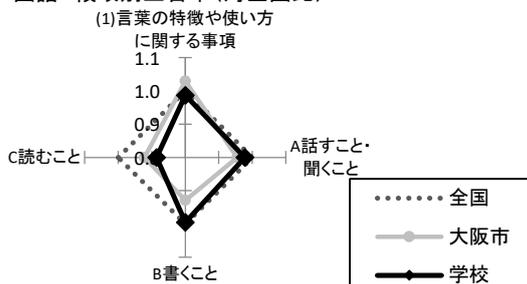
国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



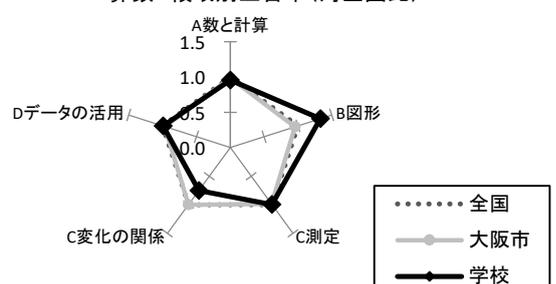
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)



算数 領域別正答率(対全国比)



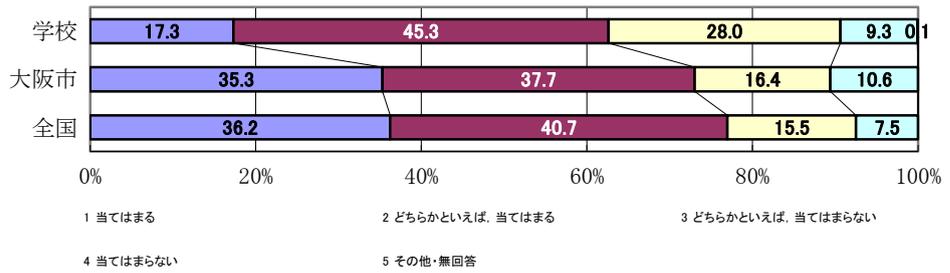
児童質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

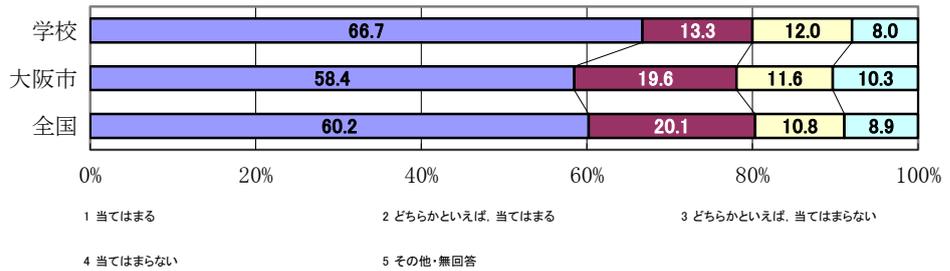
6

自分には、よいところがある
と思いますか



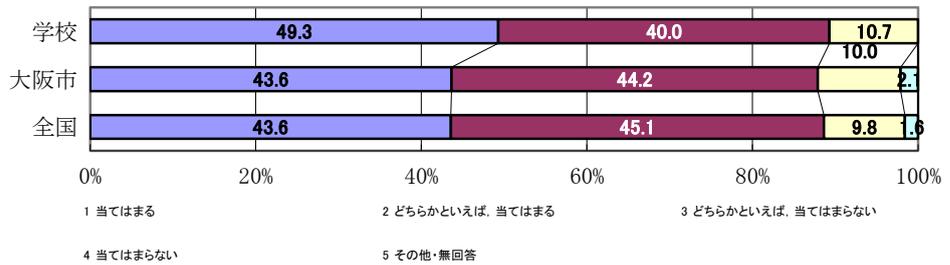
7

将来の夢や目標を持って
いますか



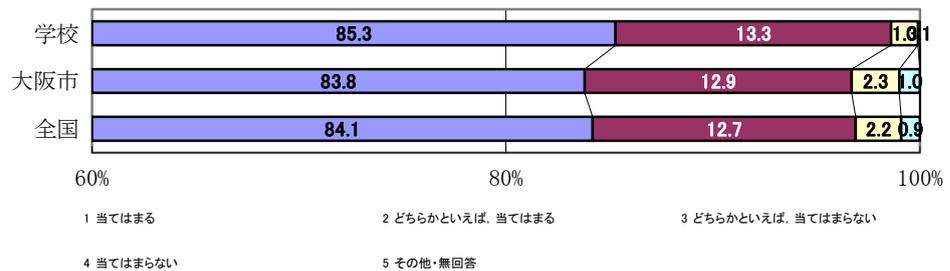
10

人が困っているときは、進
んで助けていますか



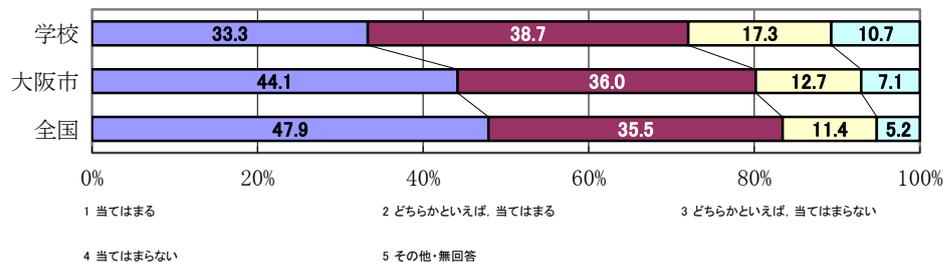
11

いじめは、どんな理由が
あってもいけないことだと思
いますか



13

学校に行くのは楽しいと思
いますか



学校質問紙より

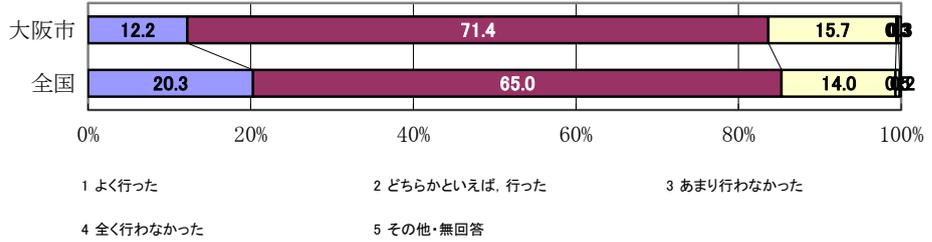
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

8

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

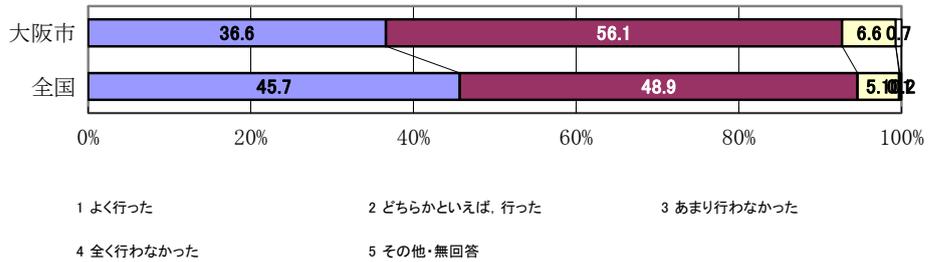
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



9

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか

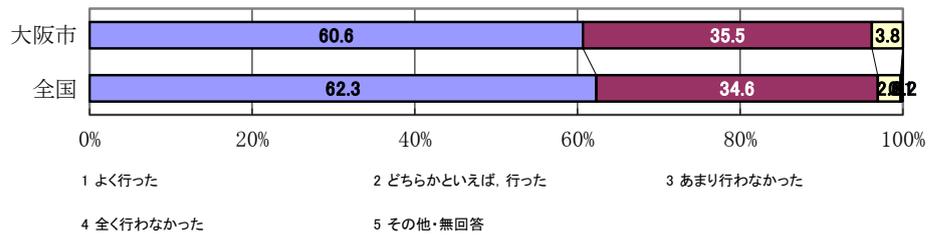
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



10

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習規律(他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど)を維持しましたか

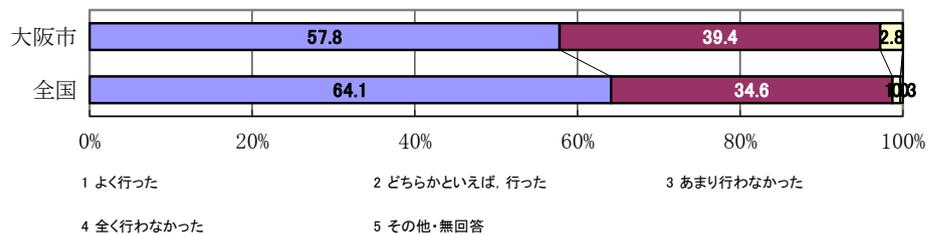
学校 「よく行った」を選択



11

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか

学校 「よく行った」を選択



21

言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択

